

# 平和のために命をかける2人の講演会

「地雷被害をゼロにする、これが私の使命です」



大谷 賢二

1951年福岡市生まれ。九州大学法学部卒。

在学中よりベトナム反戦など反戦・平和の運動に携わり、現在も様々な取組を行う。この約40年の間に旧ソ連、ヨーロッパ、中近東、アジア、アフリカ、南北アメリカなど93カ国を訪問、自分自身の目で各国の現実を見つめてきた。カンボジアを訪れた際、多くの地雷被害者に出会い、地雷問題の深刻さに直面。帰国後自らカンボジア地雷撤去キャンペーン（CMC）を設立。2011年4月、更なる支援の継続と基盤強化を図るため一般財団法人化し、一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーンを設立、理事長に就任。現在、世界の地雷廃絶運動を推進。写真展や講演会・チャリティー活動などを通して、国内での支援を募り、カンボジア現地の地雷撤去・地雷被害者救済支援、地雷原での学校建設及び運営地雷被害者の心のケアなどさまざまな活動を実践している。信念は「地球人として、地球人のために」

「10歳で銃を渡され、地雷の埋め方を教えられた。」



AKIRA

1973年頃の生まれ（正確な生年月日は不明）

生まれてすぐ両親から引き離され、ポルポト派の子供グループの中で育てられる。5歳の時両親はポルポト派によって殺され、その後もポルポト派に育てられて、10歳の時には少年兵として実弾入りの銃を持たされ、地雷の埋め方の訓練も受ける。13歳の時ベトナム軍に捕まり、その後はベトナム兵として昨日まで仲間だったポルポト派と戦う事になる。以降、内戦に翻弄されながら20歳まで兵士として生きる。

内戦終了後、国連UNTACの活動をきっかけに地雷撤去を開始。これまで50,000個以上の地雷や不発弾を撤去してきた。1999年より、撤去した地雷を集めた地雷博物館を設立。また孤児院も併設し、現在、40名の恵まれない子どもたちを養っている。

## CMCの活動…地雷被害ゼロを目指して

日本と同じアジアであるカンボジアでは、現在も約600万個もの地雷が埋設されており、何の罪のない人々や子ども達が手足を奪われています。このような被害をなくすため、(財)カンボジア地雷撤去キャンペーン（CMC）は、国内学校での授業や講演会、写真展、様々なチャリティー事業を展開し、それにより得た資金で地雷撤去団体や緊急病院への資金援助や地雷原での学校建設など教育支援、農業トレーニング、被害者のためのラジオ番組放送などを実施して参りました。さらに今後は、特に子ども達の実地地雷被害をゼロにするための「地雷危険回避教育」や地雷原生活者および地雷被害者の雇用創出事業も進めていきます。

平和を作るのは私たち一人一人です。今回の15周年記念式典を平和活動への第一歩として頂ければ幸いです。

### ●参加お申込み方法

FAXでお申込みの方は、以下ご記入頂き **[FAX] 092-833-7677** までお送り下さい。

### ●参加 お申込み枚数

団体名：  
\_\_\_\_\_

代表者名：  
\_\_\_\_\_

TEL：  
\_\_\_\_\_

おとな	2,000円×	枚 =	円
小学生以下	1,000円×	枚 =	円
合計		枚 =	円

その他お申込み、お問合せは、(財)カンボジア地雷撤去キャンペーン事務局（担当：古川、星原）まで

**[TEL] 092-833-7575 [MAIL] cmc5963@gmail.com**